世界遺産登録と活用の最新情報

文化庁文化資源活用課文化財調査官
西　川　英　佑

近年の世界遺産委員会における議論

2019年6月末から7月頭にかけてアゼルバイジャン共和国で開催された第43回世界遺産委員会では新たに29件が世界遺産一覧表に加わり、我が国の「百舌鳥･古市古墳群 －古代日本の墳墓群－」も一覧表に記載された。この結果、世界遺産の総数は1121件となった。このように世界遺産は年々増え続け、それに対する社会的関心もますます高まっている。一方で、記載される世界遺産が多様化し、その関係者も広がり、取り巻く社会的状況も変化し、様々な問題が顕在化してきている。特に、世界遺産の類型間や地域間の不均衡の是正、新規推薦案件の審査方法、構成資産の周辺環境の保全、危機遺産登録の役割などの問題は近年の世界遺産委員会で活発に議論されている。また気候変動や自然災害、紛争などからいかに世界遺産を守るか、さらにはこういった社会問題に世界遺産がいかに貢献することができるかについても関心が持たれている。

国内の世界遺産の保存と活用

我が国の世界遺産の総数は現在、文化遺産19件、自然遺産4件の計23件である。遺産の規模や類型は多様で、構成資産が持つ周辺環境も様々であり、それぞれに適した保存と活用の在り方が求められる。特に近年、周辺環境（緩衝地帯）における開発等に対し遺産への影響の有無を確認する遺産影響評価の方法の整備が進められている。また、構成資産が面的に広がるシリアル型の世界遺産においては、いかに構成資産を繋げ全体を一体的に見せるかについて取り組みがなされている。さらには世界遺産に含まれていない文化財も含め、総合的にその地域の文化を伝えていくことが期待されている。世界遺産登録の効果は、観光客増加だけで捉えられがちであるが、地域の活性化や文化理解の教育、調査研究の促進など広がりを持って評価されるべきであろう。

第43回世界遺産委員会会場　©文化庁

百舌鳥古墳群　©堺市教育委員会

日本列島の縄文文化と「北海道・北東北の縄文遺跡群」

同志社大学文学部教授
水ノ江　和　同

縄文文化の範囲

約13,000年続いたとされる縄文文化。その範囲は一貫して、地理的に「日本列島」とされる範囲とほぼ同じでした（図1）。北海道の宗谷海峡・択捉海峡と九州の対馬海峡西水道では、いずれも対岸が見えます。これらの海峡では人の往き来はありますが、文化的な交流はありませんでした。八丈島と久米島から先には島影はみえないため、人の往き来もなく縄文文化の南端となります。海は文化的な境界の役割を担っていたようです。

縄文文化という枠組み

世界的にみても、一つの文化が一万年以上も続くことは基本的にはないとされています。そのなかにあって縄文文化は約13,000年も続きます。世界的には縄文時代相当期の新石器時代は、「○○文化」「○○文化期」などとしてその変遷を何段階かに分けて捉えます。この「文化」の考え方は、近現代の考古学者が作った枠組みであり、当時そのような枠組みが実際に存在したわけではありません。日本の考古学では1930年代以降、縄文文化という枠組みを一貫して使ってきました。したがって、「一万年以上も続く文化はない」という考え方は必ずしも適切ではありません。

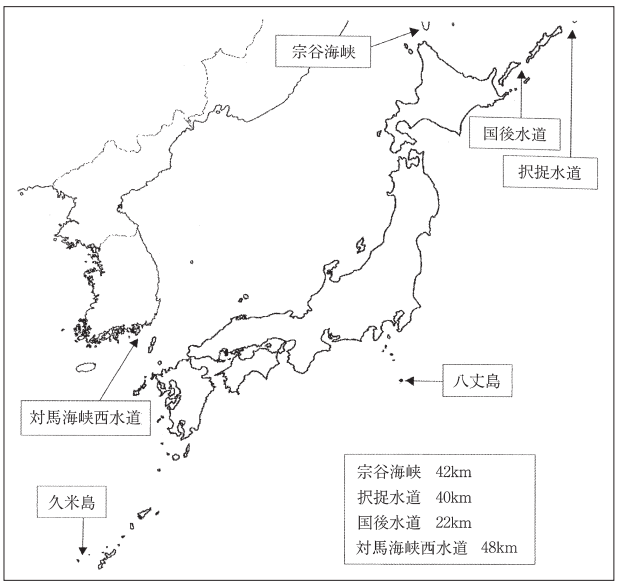

図1　縄文文化の範囲

「北海道・北東北の縄文遺跡群」をどう捉えるか？

玦状耳飾（けつじょうみみかざり）という石で作った耳飾りが、縄文時代早期末葉から中期中葉にかけて約2,000年近く日本列島全域に分布します（図2）。三内丸山遺跡からも出土します。これは同時期の東アジア一帯（中国・極東ロシア・朝鮮半島）にも広く分布する装身具です。縄文文化は東アジアの中では、かなり個性的な文化を育み発展してきました。そのなかにあって、この玦状耳飾のように一部の文物が海を越えてやってきます。今回、こういった縄文文化の枠組みという視点から、「北海道・北東北の縄文遺跡群」を考えてみます。

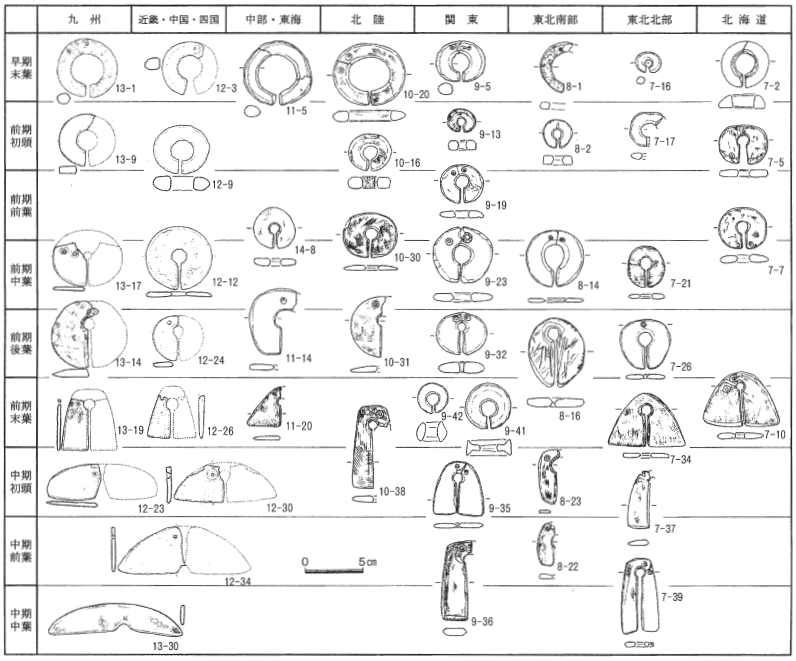

図2　日本列島の玦状耳飾

ここまできた『北海道・北東北の縄文遺跡群』と最新情報

縄文遺跡群世界遺産登録推進会議座長
青森県企画政策部世界文化遺産登録推進室長
岡　田　康　博

推薦書について

○縄文遺跡群の顕著な普遍的価値とは

本資産は、北東アジアにおける世界的にも稀な長期間継続した採集・漁労・狩猟文化による定住の開始、発展、成熟の過程及び精神文化の発達をよく表しており、農耕文化以前における人類の生活の在り方と精緻で複雑な精神文化とを示す物証として顕著な普遍的価値を持つ。⇒評価基準のⅢとⅤを適用

○北日本と17遺跡である理由とは

この地域では、地理的・自然的環境から、同一の文化的まとまりが縄文時代の1万年以上を通じて成立していた。その背景として、採集・漁労・狩猟を基盤とする定住を支えた豊かな自然環境に恵まれたことが挙げられ、生物多様性に富んだ北方ブナ帯の森林が人々の生活域である海岸近くまで広がり、さらに寒流と暖流が交差する海洋が3方を囲み、森林資源・水産資源ともに恵まれた環境にあった。⇒シリアルノミネーションとして推薦。

17遺跡は、長期間継続した採集・漁労・狩猟を基盤とする生活を定住の視点でその変遷を連続して示すことができる物証である。

発掘調査

全容解明のため発掘調査が継続して行われている遺跡がある。

三内丸山遺跡（青森市）では、遺跡北側を中心に集落構造の変遷を、**是川石器時代遺跡**（八戸市）では当時の環境を明らかにするために発掘調査が行われた。

また、**キウス周堤墓群**（千歳市）や**亀ヶ岡石器時代遺跡**（つがる市）では、これまでの発掘調査や研究成果をまとめた総括報告書が刊行され、遺跡の全体像がより詳しく示された。

現地説明会（三内丸山遺跡）

公開・活用に向けて

縄文遺跡群の中核的な遺跡である三内丸山遺跡では今年度より調査研究、展示、普及活動の拠点となる三内丸山遺跡センターが設置された。また、**入江貝塚・高砂貝塚**（洞爺湖町）や**垣ノ島遺跡**（函館市）、**大森勝山遺跡**（弘前市）では史跡としての環境整備が、**二ッ森貝塚**（七戸町）ではガイダンス施設、**大平山元遺跡**（外ヶ浜町）や**大船遺跡**では植栽整備が進められた。

その他

北黄金貝塚（伊達市）、**御所野遺跡**（一戸町）、**小牧野遺跡**（青森市）では遺跡を活用したイベント、**伊勢堂岱遺跡**（北秋田市）では駅などでの積極的な情報発信、**大湯環状列石**（鹿角市）では新しい体験学習メニューが行われるとともに、**田小屋野貝塚**（つがる市）ではボランティアガイドの育成も新たに始まった。

プログラム

司会　上明戸　華恵

13時30分　開　会

主催者挨拶

縄文遺跡群世界遺産登録推進本部長
青森県知事　三　村　申　吾

講演

「世界遺産登録と活用の最新情報」

文化庁文化資源活用課
文化財調査官　西　川　英　佑

講演

「日本列島の縄文文化と『北海道・北東北の縄文遺跡群』」

同志社大学文学部教授　水ノ江　和　同

休　憩

映像紹介

「北海道・北東北の縄文遺跡群」

報告

「ここまできた『北海道・北東北の縄文遺跡群』と最新情報」

縄文遺跡群世界遺産登録推進会議座長
青森県企画政策部世界文化遺産登録推進室長　岡　田　康　博

16時30分　閉　会